

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

実施日：令和6年4月18日(木)

対象学年：中学校3学年、小中学校9学年、総合支援学校中等部3学年

実施教科：教科(国語、数学)、生徒質問紙調査

京都市全体の分析結果について

京都市教育委員会公表資料より

京都市立中学校の平均正答率は、全国平均に対して、国語は1.9ポイント、数学は0.5ポイント上回るなど、平成26年度以降、国語、数学においては全国平均以上になっています。さらに、無回答率が全国平均と同等又は下回る結果となっており、生徒が最後まで諦めずに解答しようと取り組んだ姿勢がうかがえます。

※さらに詳細な分析は、京都市教育委員会 HP に掲載しています。

URL <https://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/page/0000257347.html>

	国語(設問数15問)		数学(設問数16問)		合計
	正答数	正答率	正答数	正答率	正答率
京都市	9.1	60 (3位/3位)	8.5	53 (11位/11位)	56.5 (7位/8位)
全国(公立)	8.7	58.1	8.4	52.5	55.3
京都府 (市除く)	8.7	58	8.3	52	55.0
京都府 (市含む)	8.9	58	8.4	53	56.0

※()内は、左：都道府県47自治体の成績に当てはめた順位、右：政令指定都市20自治体中の順位

本校各教科の分析結果について

主に全国の結果との比較

国語

全国平均に対し、2ポイント下回る結果となりました。「知識及び技能」では、「我が国の言語文化に関する事項」の正答率が全国平均を6ポイント上回りました。しかし「言葉の特徴や使い方に関する事項」は6ポイント下回っています。ここから、古典の言語事項に関する知識はある程度身に付いているが、表現の技法や漢字の読み書きなどに関する知識が十分でないことがわかります。「思考力、判断力、表現力等」では、「書くこと」、「読むこと」は全国平均とほぼ変わらない結果ですが、「話すこと・書くこと」は全国平均を4ポイント下回っています。質問紙の「話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめていますか」の設問に対しては、「どちらかといえば、当てはまらない」、「当てはまらない」との回答が約3割を占めています。普段の授業では積極的にペアワークを行い、意見を交換していますが、内容を深く理解したうえで意見を交換できるよう、授業を行っていきたくと考えています。ご家庭におかれましても、会話などから言葉の発信を勧めるなど、学習のご支援をしていただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

数学

平均正答率が全国平均を5.5%下回る結果となりました。計算問題などの解答の無回答率は全国や京都府の平均より少なく、最後まであきらめずに解こうという意欲は高いです。しかし、説明を求められるような記述式の解答の無回答率が全国や京都府の平均を上回る結果となりました。生徒質問紙では、「数学の学習を普段の生活で活用できないか考えますか」という解答が全国を上回る結果となり、生活の中で数学の必要性を考える生徒が多いことがうかがえます。今回の結果を踏まえ、学んだことをアウトプットできる授業での工夫や取り組みを研究していきたくと思っています。学習習慣定着のためにも、家庭学習の充実を図り、基礎基本的な力が定着できるようご支援を宜しくお願い致します。

生徒質問紙より

【基本的な生活習慣について】

毎日の生活習慣の基本となる就寝と起床の時間について、「毎日同じ時刻に寝ている」「毎日同じ時刻に起きている」生徒が、今年度も全国より少なく、規則正しい生活が送れていない生徒が多い傾向にあるようです。また、「朝食を毎日食べていますか」という設問については、9ポイントも下回る結果となりました。朝ごはんをきちんと食べて一日をスタートすること、規則正しく就寝・起床することは学校生活にも良い影響を与えると考えられます。学習意欲を持たせ、活力ある生活にするためにも、ぜひご協力をお願いします。また今回の調査で一番の課題としては、携帯やスマートフォンの使用の実態だと感じます。平日のゲームをする時間とSNSや動画を視聴する時間を問う設問に、「4時間以上している」と答えた生徒が、ゲーム時間は全国平均より13ポイント、視聴時間は17ポイントも上回っていました。また、過半数の生徒が2時間以上平日にもゲームをしていると答えており、学習時間への影響や生活習慣の乱れが懸念されます。休日も含めて、長い時間ゲームや動画やSNSを視聴して過ごしている生徒が多く見られます。ご家庭でのスマートフォンの使い方のルールを再確認していただき、効率の良い時間の使い方や余暇の過ごし方を、この機会にぜひ一度見直していただきたいと思います。

【学習習慣、学校での教育活動について】

『分からないことに対して自分で学び方を考え工夫している』生徒が全国と同じ水準まで増えました。昨年までは、自ら計画的に学習することができていない生徒の方が圧倒的に多いという結果が出ており、とても良い傾向にあると思います。引き続き学校側としても継続的に課題を出したり、計画表を立てさせたりするなど習慣づけにつなげるしかけを行っていきたくと思います。その中で『自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか』という設問に肯定的に答えた生徒が全国平均より4ポイント下回りました。全体的に学ぼうとする生徒は増えてきていると感じていますが、本校の教育目標である「伝える力」について、他の人の意見を聞くレベルから、さらに自分の意見を相手に伝えようとする段階へのステップアップを目指していきたいと思っています。一方で『ICT機器を利用した方が学習の理解がしやすい』と答えた生徒が例年より大幅に少ない結果となりました。年々学校や家庭でのICT機器の学習への利用が進んできている中ですが、ICTだけに頼らず、自分に合う学習方法を探し、実践することができていることの現れだと思います。しかし、教師側のICT活用が少ないという結果ともとれることから、教師側の授業改善も進めていきたいと思っています。また『自分が理解するまで先生は教えてくれる』と回答した生徒が全国平均より上回っており、教師との良好な関係が感じられました。授業だけで理解できなかったところを教師に気軽に聞ける関係をこれからも築いていきたいと思っています。

【規範意識・自己有用感について】

設問『いじめは、どんな理由があってもいけない』への「あてはまる」の回答は引き続き全国を上回り、高い人権意識を感じることができそうです。

課題が大きかった自己有用感に関する設問に対して、『自分には良いところがあると思いますか』という設問への回答で、昨年に引き続き全国平均を(京都府も)少し下回りました。一方で、「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか」という設問には、9割以上の生徒が「どちらかといえば当てはまる」「当てはまる」と答えてくれました。私たちも、もっと積極的に生徒たちの良いところ、頑張っているところを伝え、生徒が自信をもって日々の生活を送れるよう心掛けていきたいと思っています。

また、『将来の夢や目標を持っていますか』という設問では、「あてはまる」と答えた生徒が今年度も全国平均を上回る結果となりました。私たちも日々の教育活動や学校行事、生徒会活動などを通して、生徒の意欲や向上心を高め、将来の展望がより具体的に持てるように努力してまいります。引き続き、ご家庭におかれましても、子どもたちに自信をもたせ、個性を伸ばすはたらきかけの支援をよろしくお願いいたします。

以上の結果を真摯に受け止め、今後の課題とするとともに、梅津中学校をさらに良い学校にすべく、教職員一同取り組んでまいりますので、これからもご理解・ご協力をお願いいたします。

